

皆様おはようございます。

猛暑と夕立の中、お元気でお過ごしでしたか。コロナ感染者数も増えてまいりました。どうぞご自愛いただきたく、またご無事をお祈りしております。

いよいよ召天者記念礼拝が来週に行われます。参列者のご遺族の方々への良き証しのため、お祈りください。また今日の礼拝後には教会の準備、墓地の清掃も含め、活動を計画しております。お時間のある方はぜひご協力をお願いいたします。

さて、主イエス様の教会に宛てた手紙も、4か所目の教会となりました。エペソ、スミルナ、ペルガモに続いて今日のテアテラです。

テアテラは小さな町で、布の染め物をする職人が多く住んでいました。

18 テアテラにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『燃える炎のような目と光り輝くしんちゅうのような足とを持った神の子が、次のように言われる。

エペソの教会に宛てては「右の手に七つの星を持つ者、七つの金の燭台の間を歩く者」、スミルナには「初めであり、終りである者、死んだことはあるが生き返った者」、ペルガモには「鋭いもろ刃のつるぎを持っているかた」、そしてテアテラには「燃える炎のような目と光り輝くしんちゅうのような足とを持った神の子」という語り掛けです。

それぞれの教会をよく見て、良く知り、よくわかっておられる主が、それぞれの教会に対して、気を付けるべきことを語られます。私たちもまた、私たちの教会に宛てては、そして私たち自身に宛てては、主はどのように思っておられるのだろうと思いながら、7つの教会への手紙を読み進めている訳です。

主は、「燃える炎のような目」をもって、熱く激しく、情熱をもって、見通す目で私たちをもご覧になっておられます。そのまなざしは、23節にこうあるように、透徹しています。「こうしてすべての教会は、わたしが人の心の奥底までも探り知る者であることを悟るであろう。」そして「光り輝くしんちゅうのような足とを持った神の子」は、火の中で溶け、合金であるしんちゅうが造られたように、火の苦しみの中を、私たちのために十字架に進まれた神の子です。火と復活を通過してきた一点の曇りもなきしんちゅうのように輝く足をもってやって来られ、義をもって不義を踏み砕かれます。

それは何のためでしょうか。それは主が私たちを危うきから救い出すためです。病が進んで手遅れになる前に早期発見をするため、そして私たちが悔い改めて、向きを変えて再出発して危うきから逃れるためです。

19 わたしは、あなたのわざと、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐とを知っている。また、あなたの後のわざが、初めのよりもまさっていることを知っている。

「わたしは、あなたのわざと、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐とを知っている。」今日の個所では「わざ」という言葉が何回も出てきます。

エペソの教会に主はこう書き送られました。

2:4 しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

2:5 そこで、あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい。

これに比べれば、テアテラの教会は、「あなたのわざと、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐とを知っている。また、あなたの後のわざが、初めのよりもまさっていることを知っている」と言われるところを見ると、なんと素晴らしいことかと思えます。

愛と信仰と奉仕と忍耐による業。そしてその業は、最初のころのものよりも勝っているとは、なんとという最大限の誉め言葉なのでしょうか。

愛と信仰と奉仕と忍耐。イエス・キリストによってあらわされた愛にしっかりと留まって、それは神様への感謝と献身との信仰を生じさせ、それは奉仕に至らせ、それにあたっては、期せずして吹きすさぶ正面からの風当たりの強さにも忍耐し続ける。なんとという実践を通じた、主の愛に答える信仰生活なのでしょうか。

20 しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは、あのイゼベルという女を、そのなすがままにさせている。この女は女預言者と自称し、わたしの僕たちを教え、惑わして、不品行をさせ、偶像にささげたものを食べさせている。

しかし、しかしでした。

ニコライに続いて、バラムとバラクに続いて、イゼベルです。

イゼベルと言えば、北イスラエルのアハブ王の妻となるや、バアルやアシェラの偶像をどんと持ってきたり(1列王記21章)、預言者の大虐殺を行ったり(1列王記18章)した、悪名高き女性です。新約のこの時代にも、旧約の時代のイゼベルよろしく、自分を女預言者と称して主のしもべを教え、惑わして、不品行をさせ、偶像にささげたものを食べるようにさせていました。テアテラの教会は、イゼベルに、その成すが儘を赦していました。

21 わたしは、この女に悔い改めるおりとを与えたが、悔い改めてその不品行をやめようとはしない。

「悔い改める」とは、心の変化を生み出し、罪から向きを変え出発し、方向と道のり、人生の行路を変えるという事を意味します。主はその機会をこの女性に与えましたが、その通りに悔い改めて不品行をやめようとはしませんでした。

22 見よ、わたしはこの女を病の床に投げ入れる。この女と姦淫する者をも、悔い改めて彼女のわざから離れなければ、大きな患難の中に投げ入れる。

悔い改めるということは私たちの命を守る行動です。そのままの道筋で進んでいったら危険だ、危ないという主の警告が与えられた時、悔い改めを拒むものは何でしょうか。21-22節には3度も「悔い改め」という言葉が出てきます。神様は口を酸っぱくして私たちの救いを願っておられますが、それを拒むとき、その先にあるのは病の床と、大きな患難です。どんなにかその姦淫の寝床が心地よいものであったとしても、罪に伏すその場所が居心地が良いもの、美しく、かぐわしく、心地よいところであったとしても、それは病の床、大きな患難の場所となります。それがイゼベル、「彼女のわざ」です。

「愛と信仰と奉仕と忍耐、あなたの後のわざが、初めのよりもまさっている」といわれたよき業、かつてよりも勝っている、愛と信仰と奉仕と忍耐をあんなにもよく働かせて主のお褒めに預かったのに、どうしてこのような変節を遂げてしまったのでしょうか。悪しきものの、預言者のふりをして正しい、美しいものとして近づいてくるイゼベルの感化と誘惑に負け、「彼女のわざ」に毒されてしまい、教会の「わざと、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐」とが損なわれ、「あなたの後のわざが、初めのよりもまさって」たのに、損なわれてしまったのでした。人のよき業というものは、何と不確かで、もろいものなののでしょうか。どうして人間は弱く、よき事をし続けることが出来ないのでしょうか。

昨日は広島原爆の日でした。平和を再び揺るぎないものにしようとする祈りが強くささげられました。テレビを見ておりましたら、福山にあります「ホロコースト記念館」の元館長の塚信さんに向けてユダヤ人のアンネ・フランクの父オットーさんが語りかけた言葉が紹介されました。

「アンネをはじめ 150 万人の子どもたちに、ただ同情するだけではなく、平和をつくるために、何かをする人になってください。」(オットー氏)「あなたもここに来て、『いかに今を生きるか』を問いかけてみてください。」(塚氏)

「いったい、そう、いったい全体、戦争がなにになるのだろう。なぜ人間は、おたがい仲よく暮らせないのだろう。なんのために」(アンネ・フランク)

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」(国連・ユネスコ憲章)

「自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。」(2022年8月6日 平和への誓い・小6 山崎 鈴さん)

私たちの心が容易にくじけることがありませんように、悪しきわざによって容易に捻じ曲げられてしまうものではありませんように。良き業のままで保たれますように。初めの愛から落ちてしまわずに、迷子にならずに、そこを進み続けることが出来ますように。愛と信仰と、奉仕と忍耐の中を進み続けられますように。手話、良き業を私たちに授けて下さい。私たちは紆余曲折する弱いものだからです。ようにい悪しき者の強烈な業によって一貫性を失って、崩れて行ってしまうからです。どうか助けて下さい、そのような祈りが口を突いて出てきます。

23 また、この女の子供たちをも打ち殺そう。こうしてすべての教会は、わたしが人の心の奥底までも探り知る者であることを悟るであろう。そしてわたしは、あなたがたひとりびとりのわざに応じて報いよう。

主は「燃える炎のような目と光り輝くしんちゅうのような足とを持った神の子」、「人の心の奥底までも探り知る者」です。

「そしてわたしは、あなたがたひとりびとりのわざに応じて報いよう」ですから私たちは、主の救いを求めてあえぎます。

主は私たちの心の奥底までも探り知るお方だからです。私たちがお付き合いすべきでないものと仲良くし、神の敵となる事がないように。

ヤコブ 4:1 あなたがたの中の戦いや争いは、いったい、どこから起るのか。それはほかではない。あなたがたの肢体の中で相戦う欲情からではないか。

4:2 あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだ。

4:3 求めても与えられないのは、快樂のために使おうとして、悪い求め方をするからだ。

4:4 不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。

4:5 それとも、「神は、わたしたちの内に住ませた霊を、ねたむほどに愛しておられる」と聖書に書いてあるのは、むなしい言葉だと思ふのか。

4:6 しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」とある。

4:7 そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれ

ば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。

4:8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。

24 また、テアテラにいるほかの人たちで、まだあの女の教を受けておらず、サタンの、いわゆる「深み」を知らないあなたがたに言う。わたしは別にほかの重荷を、あなたがたに負わせることはしない。

25 ただ、わたしが来る時まで、自分の持っているものを堅く保っていなさい。

26 勝利を得る者、わたしのわざを最後まで持ち続ける者には、諸国民を支配する権威を授ける。

しかし神様はテアテラに残りのものを備えて下さいました。すべての人が放蕩に落ちてしまったのではないのです。すべての人があの女のわざに引き寄せられて変節したわけではなく、すべての人が頑なに悔い改めを拒んだのではないのです。

まだあの女の教を受けておらず、サタンの、いわゆる「深み」を知らないあなたがたに言う。わたしは別にほかの重荷を、あなたがたに負わせることはしない。

「ほかの重荷を、あなたがたに負わせることはしない」この言葉は、使徒行伝の次の言葉を思い起こさせます。

15:28 すなわち、聖霊とわたしたちとは、次の必要事項のほかは、どんな負担をも、あなたがたに負わせないことに決めた。

15:29 それは、偶像に供えたものと、血と、絞め殺したものと、不品行とを、避けるということである。これらのものから遠ざかっておれば、それでよろしい。以上」。

主はこの事だけは大切であるということ、私たちに分かる形で示して下さいます。聖霊によって、私たちの心の奥底までも知り極めておられる方は、聖霊によって、自由の律法によって私たちを導いて下さいます。

ヤコブ 2:8 しかし、もしあなたがたが、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という聖書の言葉に従って、このきわめて尊い律法を守るならば、それは良いことである。

2:9 しかし、もし分け隔てをするならば、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違反者として宣告される。

2:10 なぜなら、律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになるからである。

2:11 たとえば、「姦淫するな」と言われたかたは、また「殺すな」とも仰せになった。そこで、たとえ姦淫はしなくても、人殺しをすれば、律法の違反者になったことになる。

2:12 だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい。

2:13 あわれみを行わなかった者に対しては、仮借のないさばきが下される。あわれみは、さばきにうち勝つ。

2:14 わたしの兄弟たちよ。ある人が自分には信仰があると称していても、もし行いがなかったら、なんの役に立つか。その信仰は彼を救うことができるか。

2:15 ある兄弟または姉妹が裸でいて、その日の食物にもこと欠いている場合、

2:16 あなたがたのうち、だれかが、「安らかに行きなさい。暖まって、食べ飽きなさい」と言うだけで、そのからだに必要なものを何ひとつ与えなかったとしたら、なんの役に立つか。

2:17 信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである。

25 ただ、わたしが来る時まで、自分の持っているものを堅く保っていなさい。

自分の持っているものを堅く保っていなさい。聖霊に教えられるまま、神の義の奴隷として進み、栄光から栄光へと進むことができます。

2 コリント 3:14 実際、彼らの思いは鈍くなっていた。今日に至るまで、彼らが古い契約を朗読する場合、その同じおおいが取り去られないままに残っている。それは、キリストにあってはじめて取り除かれるのである。

3:15 今日に至るもなお、モーセの書が朗読されるたびに、おおいが彼らの心にかかっている。

3:16 しかし主に向く時には、そのおおいは取り除かれる。

3:17 主は霊である。そして、主の霊のあるところには、自由がある。

3:18 わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

26 勝利を得る者、わたしのわざを最後まで持ち続ける者には、諸国民を支配する権威を授ける。

私たちは、自分のわざをも、悪しき者のわざをも守るのではなくて、私のわざ、主のわざを賜り、大切に保ち続ける者です。自らに良き事を行う力はありません。悪しき者に打ち勝つ力也没有。ただ主の十字架の贖いにより、復活の力により、私たちは主の良き御業を賜り、それを行わせていただくのです。

ローマ 6:9 キリストは死人の中からよみがえらされて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を支配しないことを、知っているからである。

6:10 なぜなら、キリストが死んだのは、ただ一度罪に対して死んだのであり、キリストが生きてるのは、神に生きるのだからである。

6:11 このように、あなたがた自身も、罪に対して死んだ者であり、キリスト・イエスにあって神に生きている者であることを、認むべきである。

6:12 だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることをせず、

6:13 また、あなたがたの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。

6:14 なぜなら、あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの下にあるので、罪に支配されることはないからである。

6:15 それでは、どうなのか。律法の下ではなく、恵みの下にあるからといって、わたしたちは罪を犯すべきであろうか。断じてそうではない。

6:16 あなたがたは知らないのか。あなたがた自身が、だれかの僕になって服従するなら、あなたがたは自分の服従するその者の僕であって、死に至る罪の僕ともなり、あるいは、義にいたる従順の僕ともなるのである。

6:17 しかし、神は感謝すべきかな。あなたがたは罪の僕であったが、伝えられた教の基準に心から服従して、

6:18 罪から解放され、義の僕となった。

6:19 わたしは人間的な言い方をするが、それは、あなたがたの肉の弱さのゆえである。あなたがたは、かつて自分の肢体を汚れと不法との僕としてささげて不法に陥ったように、今や自分の肢体を義の僕としてささげて、きよくならねばならない。

6:20 あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。

6:21 その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。

6:22 しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

26 勝利を得る者、わたしのわざを最後まで持ち続ける者には、諸国民を支配する権威を授ける。

27 彼は鉄のつえをもって、ちょうど土の器を砕くように、彼らを治めるであろう。それは、

わたし自身が父から権威を受けて治めるのと同様である。

28 わたしはまた、彼に明けの明星を与える。

29 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。

私たちは弱い土の器、鉄の杖をもって粉々にされるばかりでしたが、暗闇に上る明けの明星なるイエス・キリストによって生きる者となりました。そして御言葉を抱いて、空の星のように輝くのです。

ピリピ 2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。

2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。

2:14 すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。

2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持つて、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

2:16 このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、労したこともむだではなかったと誇ることができる。

2:17 そして、たとえ、あなたがたの信仰の供え物をささげる祭壇に、わたしの血をそそぐことがあっても、わたしは喜ぼう。あなたがた一同と共に喜ぼう。

2:18 同じように、あなたがたも喜びなさい。わたしと共に喜びなさい。

ローマ 8:31 それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。

8:32 ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わないことがあろうか。

8:33 だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。

8:34 だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。

8:35 だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。

8:36 「わたしたちはあなたのために終日、／死に定められており、／ほふられる羊のように見られている」／と書いてあるとおりである。



8:37 しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。

8:38 わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

8:39 高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。もろもろの嵐吹きすさぶ中、いつも弱き私たちの心の中の思いや判断を見ておられ、悔い改めの機会を与え、あなたの良き業を成し続け、実を実らせることが出来るようにとお導き下さいまして、本当にありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン